３つの徹底で防ぐガガイモ対策

ガガイモを　ほ場に**「いれない」**　種を**「つけさせない」**　根を**「伸ばさない」**

ガガイモ　とは？

・キョウチクトウ科、多年生つる性
・根で旺盛に繁殖し、種子で拡散する
・茎を切ると白い乳液が出る

作物にからみついて
・生育を阻害
・引き倒す

ガガイモ対策フロー

ガガイモはどこに生えている？

ほ場周辺
- ① 緩衝帯をつくる（緩衝帯のロータリー掛け・除草剤散布）
- ② 法面の除草

ほ場内
- ③ 飼料用とうもろこし生育期間（ガガイモ防除歴の③へ）
- ④ 飼料用とうもろこし収穫後（ガガイモ防除歴の④へ）
- ⑤ 牧草へ転換

ガガイモ防除暦

ガガイモの生態と飼料用とうもろこしの生育

4月 / 5月（上旬 中旬 下旬） / 6月（上旬 中旬 下旬） / 7月（上旬） / 8月 / 9月 / 10月 / 11月

ガガイモ：出芽 → 開花 → 着果 → 種子飛散

（作業・生育期節）

飼料用とうもろこし：耕起・整地 → は種 → 2～4葉 → 6～7葉

（除草剤）：土壌処理 → 生育処理

ガガイモ防除歴

4月 / 5月（上旬 中旬 下旬） / 6月（上旬 中旬 下旬） / 7月（上旬） / 8月 / 9月 / 10月 / 11月

① 緩衝帯をつくる
ポイント
・緩衝帯は畑作のほ場でも効果あり
・緩衝帯の除草処理、整地は必要

② 法面の除草（随時）

③
・土壌処理（出芽前～２葉期）＋生育処理（６～７葉期）
・生育処理（２～４葉期）＋生育処理（６～７葉期）
・土壌処理（出芽前～２葉期）＋生育処理（２～４葉期＋生育葉処理（６～７葉期）
・生育処理（６～７葉期）

ポイント
・ガガイモの根からの出芽はばらつき、後になっても出てくるため、できれば６～７葉期での処理、またはその前に一度種からの発芽個体や他の雑草を防除しておく必要あり
・ほ場のガガイモの状態を確認し、適期に除草剤を利用する

④
とうもろこし収穫後ガガイモ再葉・残葉へのグリホサート系除草剤散布

ポイント
・葉に散布する事が大切
・除草剤は十分に根に移行させるため時間を置いてから耕起する
・可能であれば、耕起・砕土で根を切断して翌年の再生力を弱める

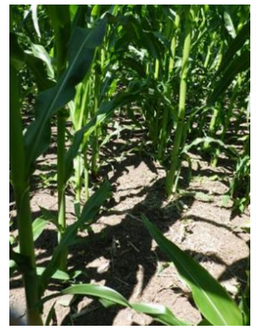
⑤ 牧草地への転換

事例紹介

① 緩衝帯をつくる
（R7.8.20 撮影）
緩衝帯は雑草の生育が旺盛なため、ロータリー掛けや除草作業が必要

⑤牧草地への転換（R7.8.25 撮影）
転換してもガガイモがゼロになっている訳ではありません。草地を良く確認して種をつけないような対策を行いましょう。

③薬剤散布
（R7.6.27 撮影　１回目防除後 16 日）
上記写真の生育処理はとうもろこし４葉期に散布



③薬剤散布
（R7.7.9 撮影
生育処理２回後 10 日）
土壌処理＋生育処理
（とうもろこし４葉期）
＋生育処理
（とうもろこし７葉期）

③薬剤散布
（R7.8.28　２回目防除後 69 日）
左：防除１回（とうもろこし３葉期のみ）
右：防除２回（とうもろこし３葉期＋７葉期）

ほ場のガガイモの状況をよく観察して対策を行いましょう。

・除草剤の時期をずらして防除することで、次々に出てくるガガイモを弱らせる事ができます。
ほ場のガガイモの状況によりますので、お近くの普及センターへご相談ください。
※北海道農作物病害虫・雑草防除ガイドを参照し、使用方法・使用時期・使用量・使用上の注意事項を遵守してください。
※同じ成分の薬剤は、飼料用とうもろこしには２回使用できませんので、注意が必要です。

令和７年度　十勝農業改良普及センター　　課題解決チーム作成